

## 編集後記

増補三訂版

というわけで、三版目を迎えたこの『道中細見記』。今回は道の状況の変化に加えて、平成5年秋に執行された第61回式年遷宮のため、神宮神域内や伊勢市内の状況が大きく変化しました。これに合わせて本文の修整だけでなく追加情報についても欲張った結果、ずいぶん分量が増えてしまいました。いよいよ持ち歩きにくい道中記になってしまい、申し訳ないかぎりです▼さまざまな状況を考えた結果、毎年改訂という形態は、今度の版をもって終了したいと思います。道は刻々と変化しているのですが、それを追いつけることはかなり大変な作業になります。幸い、こうして遷宮後の状況を記した道中記を送り出すことができましたので、来年以後は、大きな変化のあった部分についてだけ「速報」のような形態でまとめられないか、と考えています▼タイトルもそれに合わせ、干支を外して「増補三訂」としました。次の改訂は3～4年後を予定しています。それまでは別の角度からの道中記、たとえば未刊のままの資料編や、初参加者向けの簡略版、テーマ別の分冊などに取り組んでいく予定です▼それにしても、何度やっても学習効果がないというか、粗忽な仕事ぶりには我ながらあきれてしまいました。毎年の台詞ですが、読者と執筆者の皆さんに申し訳なく思います。改訂作業が追い込みに入る冬は、つくづく自分の能力の底を見せつけられるシーズンになってしまいました▼その一方、今度の宝来講はどんな旅になるのだろうか、と期待している自分がいます。常連参加者はどこかで同じようなことを思っているのではないのでしょうか。宝来講の楽しいところは、毎年同じ道を歩いても、毎年同じような旅にはならないところ。宝来講という入れ物だけがここにあり、中身は次々と入れ替わっていきます▼入れ物に中身を合わせなければならぬような、つらい場面も多くあります。しかし、若さには中身に合わせて入れ物を大きくする力もあるはず。それは道中記も同じことです。新しい力で新しい道中記ができる日。近いうちに来ればいいな、と期待しつつ、今版の作業も、了。(◎)

なお、この『道中細見記』編集に関しては、宝来講の参加回数が多いOBを中心に「宝来伊勢講道中記作成委員会」を組織、第6回宝来講での調査をはじめ、数次にわたる現地調査や編集会議を経て、さまざまな意見を吸収・反映すべく心がけました。OBのことゆえ、仕事の合間などを縫っての大変な作業だったと思います。以下に執筆分担をあげておきたいと思います。

### 執筆分担（署名のあるものは除く。カッコ内は卒業年度）

序説	竹内けい(S63), 安田真紀子(S63), 坂口知世子(S62), 樋口肇(S61)
道中編 1日目	安田真紀子, 佐藤寛(S62)
2日目	樋口肇
3日目	竹内けい
4日目	安田真紀子, 佐藤寛
5日目	安田真紀子, 佐藤寛, 坂口知世子

以上のうち、1、4、5日目を佐藤寛が、2、3日目を樋口肇が統括し、最終的な調整は、全員の意見を総合したうえで、樋口肇が行いました。

このほか、第6回宝来講当日の調査、その後の現地調査、編集会議には、次の皆さんを始め、多くの参加がありました。感謝したいと思います。

堀有希(H4林野ゼミ), 姉川裕一(H3), 谷口隆紀(H1), 藤田寿啓(H1)  
吉瀬文人(S63), 笠川哲史(S62)

最後になりましたが、今回の企画の発案者であり、いろいろお骨折りをいただいた鎌田道隆先生に厚く御礼申し上げます。

---

### 増補三訂 宝来講 道中細見記

1992年(平成4年)2月1日 平成壬申版 発行  
1994年(平成6年)1月20日 増補三訂版 印刷  
1994年(平成6年)2月1日 発行

発行者 奈良大学 鎌田研究室  
編集者 宝来伊勢講道中記作成委員会

---

落丁・乱丁本はお取り替えいたします